

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年3月14日

【四半期会計期間】 第12期第3四半期(自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日)

【会社名】 株式会社ビューティガレージ

【英訳名】 BEAUTY GARAGE Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 野村 秀輝

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【最寄りの連絡場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第3四半期 連結累計期間	第12期 第3四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日	自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日	自 平成24年5月1日 至 平成25年4月30日
売上高 (百万円)	3,753	4,549	5,288
経常利益 (百万円)	213	114	333
四半期(当期)純利益 (百万円)	119	66	190
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	119	66	190
純資産額 (百万円)	798	1,160	1,116
総資産額 (百万円)	1,570	1,954	2,083
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	113.37	56.52	176.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		56.12	173.74
自己資本比率 (%)	50.8	59.3	53.6

回次	第11期 第3四半期 連結会計期間	第12期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年11月1日 至 平成25年1月31日	自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	34.27	32.81

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、第11期第3四半期連結累計期間は当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
4. 平成24年10月2日付で1株につき200株の株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（その他周辺ソリューション事業）

前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社ムサシを平成25年5月1日付で当社に吸収合併しております。また、平成25年5月1日付けで、新規設立により株式会社サロンキャリア（連結子会社）を連結の範囲に含めております。

この結果、平成26年1月31日現在では、当社グループは、当社、子会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当社グループが事業を展開する美容サロン業界におきましては、依然として消費者マインドの冷え込みから厳しい経済環境が続いていることや、特に美容室における新規開業店舗数が増加傾向にあることから、店舗間の競争が厳しさを増し、経済的な商材仕入れルートの確保や効果的な集客方法の検討・実施に対する重要性が従来にも増して高まっております。

また、美容業界向け流通市場におきましても、美容専門商社やディーラー等の統廃合が進むなど、寡占化や淘汰が進んでおり競争が激化しております。

そのような状況下、当社グループでは、新規顧客の獲得や既存ユーザの利用率向上に向けた各種取組を積極的に実施いたしました。

平成25年5月に美容業界最大のイベントである「BEAUTY WORLD JAPAN 2013」（開催地：東京）、平成25年10月に「BEAUTY WORLD JAPAN WEST 2013」（開催地：大阪）、平成25年11月に「NAIL EXPO 2013」（開催地：東京）に出展し、新オリジナルブランド商品の販売強化とともに当社ならびに当社商品の知名度向上に努めました。

平成25年6月にはプロ向け美容商材ショールームとしては日本最大級の「東京本社総合ショールーム」を開設し、展示品数の大幅な拡充を図るとともに、商品をお買い上げいただける「BGストア」や、開業と経営の情報ステーション「BGラウンジ」を併設いたしました。

また、最大の販路であるプロ向け美容商材インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE OnLine Shop」のさらなる利便性向上のための改善、オリジナルブランド商品を中心とした商品ラインナップ拡充の強化に努めました。

取扱商品点数は50万点を超え、平成25年1月末時点で登録会員数は195,082口座（前年同期比37,247口座増）、過去1年間に1回以上購入したアクティブユーザは62,309口座（前年同期比11,858口座増）に伸長しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,549,637千円（前年同期比21.2%増）と堅調に推移しました。

一方で、円安の影響や中古商品売上高の減少等により上期における売上総利益率は低下傾向にありました。当第3四半期連結会計期間におきましては価格改定や中古商品の販売強化等に努めた結果、売上総利益率を上期に比べ改善することが出来たことから、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は1,525,904千円（前年同期比12.1%増）となりました。

また、東京本社総合ショールームのリニューアルオープンを始めとして積極的なプロモーション施策を実施したことから販売費及び一般管理費が前年同期比で増加した結果、営業利益118,841千円（前年

同期比39.3%減)、経常利益114,187千円(前年同期比46.6%減)、四半期純利益66,806千円(前年同期比44.3%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

物販事業

物販事業においては、インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」、全国主要都市10ヶ所のショールーム、カタログ通販誌「BG STYLE」を通してプロ向け美容商材をビューティサロンに提供しております。

中でも「BEAUTY GARAGE Online Shop」につきましては、当サイトを経由した売上高が全体の半分以上を占め、さらに重要度を増しております。また、商品別でみるとストック型収益商材である化粧品や消耗品の売上高が伸長しており、当社の基本戦略である「フロー&ストック型収益構造への転換」は堅調に進捗しております。

平成25年12月にはサロンワークに役立つ書籍・DVD・CDを始めとして店内閲覧用の一般雑誌等を取り扱う美容業界専門「本・DVD・CD館」サイトを開設しました。

さらに、これまでネイル商材、まつ毛商材につきましては「ネイル・まつ毛館」として一つのサイトで提供していましたが、ネイルサロン・まつ毛サロンの登録会員の増加にあわせ、平成26年1月にはそれぞれ「ネイル商材館」「まつ毛商材館」の専門サイトとしてリニューアルオープンするなど「BEAUTY GARAGE Online Shop」のさらなる強化に努めました。

また、円安の影響を加味した価格改定の実施、中古商品の販売強化、オリジナルブランド商品の継続的投入に努めるなど売上総利益率の改善に努めました。

この結果、当事業の売上高は3,460,086千円(前年同期比21.0%増)、セグメント利益は237,126千円(前年同期比15.9%減)となりました。

店舗設計事業

店舗設計事業におきましては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより店舗設計・工事施工監理を提供しております。

当社グループの総合力を活かし、従来受注案件の多くを占めていた小型・個店案件に加えて大手サロン案件の獲得を目指し、競争力のある契約価格を提示することで、新規顧客の開拓に努めたことから当事業の売上高は903,546千円(前年同期比21.9%増)、セグメント利益は29,020千円(前年同期比6.4%増)となりました。

その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業におきましては、ビューティサロンの開業と経営に必要なサポートとして居抜き物件仲介サービスや集客支援サービス、e-ラーニングサービス等の各種ソリューションサービスを、各専門インターネットサイトと全国主要都市10ヶ所のショールームを通して提供しております。

さらなる人材支援サービスの強化を目的として、平成25年5月に設立した美容業界初の完全成果報酬型求人サイト「salon career」の運営を行う連結子会社株式会社サロンキャリアにつきましては、未だ黒字化には至っておりませんが、成約件数が増加しており損失額は減少傾向にあります。

また、平成26年1月には初めて当社が著者となった書籍「失敗しない美容室開業BOOK」が日本実業出版社より出版されました。

さらに、これまでサロンの開業に関する情報発信サイトとして運営しておりました「salon開業チャ

ンネル」を開業後の経営に関わる情報も併せて発信する「salon開業・経営チャンネル」としてリニューアルオープンいたしました。

この結果、当事業の売上高は186,004千円（前年同期比20.9%増）、セグメント損失は14,585千円（前年同四半期はセグメント損失3,053千円）となっております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて8.8%減少し、1,711,199千円となりました。これは、主に商品の増加111,669千円があったものの、現金及び預金の減少143,856千円及び受取手形及び売掛金の減少89,906千円があったことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて17.6%増加し、243,621千円となりました。これは、主に有形固定資産の増加33,453千円によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて25.4%減少し、649,328千円となりました。これは、主に買掛金の減少91,000千円、未払法人税等の減少87,178千円及び1年内償還予定の社債の減少10,000千円によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて50.3%増加し、144,792千円となりました。これは、主に長期借入金の増加30,924千円及び資産除去債務の増加14,225千円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて3.9%増加し、1,160,700千円となりました。これは、主に配当金の支払に伴い利益剰余金の減少23,640千円があったものの、当四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の増加66,806千円があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	802,073	+23.9

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は製造原価によっております。

仕入実績

当第3四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
物販事業	2,297,037	+32.3
その他周辺ソリューション事業	78,681	+19.1
合計	2,375,718	+31.8

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は仕入価格によっております。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	907,459	+12.0	143,642	+10.4

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	区分	販売高(千円)		前年同四半期比(%)
		前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	
物販事業		2,858,976	3,460,086	+21.0
	理美容機器	2,240,680	2,581,813	+15.2
	化粧品等	618,296	878,273	+42.0
店舗設計事業		740,988	903,546	+21.9
その他周辺ソリューション事業		153,809	186,004	+20.9
合計		3,753,774	4,549,637	+21.2

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,232,000
計	4,232,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年3月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,182,000	1,182,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株 であります。
計	1,182,000	1,182,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年1月31日		1,182,000		262,320		213,587

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,181,600	11,816	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 400		
発行済株式総数	1,182,000		
総株主の議決権		11,816	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年11月1日から平成26年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成26年1月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	562,029	418,173
受取手形及び売掛金	392,458	302,552
商品	678,618	790,287
仕掛品	12,240	28,032
その他	240,750	179,643
貸倒引当金	9,522	7,488
流動資産合計	1,876,575	1,711,199
固定資産		
有形固定資産	39,722	73,175
無形固定資産		
のれん	2,648	1,059
ソフトウェア	34,071	32,226
その他	116	116
無形固定資産合計	36,836	33,401
投資その他の資産	¹ 130,536	137,043
固定資産合計	207,095	243,621
資産合計	2,083,670	1,954,820
負債の部		
流動負債		
買掛金	339,321	248,320
1年内返済予定の長期借入金	61,720	68,956
1年内償還予定の社債	10,000	-
未払法人税等	87,178	-
賞与引当金	20,675	56,489
製品保証引当金	10,630	8,529
受注損失引当金	21	1,589
資産除去債務	4,969	-
その他	336,125	265,442
流動負債合計	870,642	649,328
固定負債		
長期借入金	50,560	81,484
ポイント引当金	23,839	26,601
資産除去債務	9,673	23,898
その他	12,256	12,809
固定負債合計	96,329	144,792
負債合計	966,971	794,120

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	262,320	262,320
資本剰余金	213,587	213,587
利益剰余金	640,792	683,959
株主資本合計	1,116,699	1,159,866
少数株主持分	-	833
純資産合計	1,116,699	1,160,700
負債純資産合計	2,083,670	1,954,820

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
売上高	3,753,774	4,549,637
売上原価	2,392,797	3,023,732
売上総利益	1,360,977	1,525,904
販売費及び一般管理費	1,165,122	1,407,063
営業利益	195,854	118,841
営業外収益		
受取利息及び配当金	75	80
為替差益	16,523	-
債務免除益	-	916
破損商品等弁償金	818	1,677
その他	1,793	1,644
営業外収益合計	19,209	4,317
営業外費用		
支払利息	1,072	1,327
為替差損	-	6,734
その他	295	909
営業外費用合計	1,367	8,971
経常利益	213,695	114,187
特別利益		
固定資産売却益	82	95
持分変動利益	-	879
特別利益合計	82	974
特別損失		
固定資産除却損	763	-
本社移転費用	-	4,300
特別損失合計	763	4,300
税金等調整前四半期純利益	213,015	110,861
法人税、住民税及び事業税	99,788	50,233
法人税等調整額	6,716	5,892
法人税等合計	93,071	44,341
少数株主損益調整前四半期純利益	119,943	66,520
少数株主損失()	-	286
四半期純利益	119,943	66,806

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	119,943	66,520
四半期包括利益	119,943	66,520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,943	66,806
少数株主に係る四半期包括利益	-	286

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)	
(連結の範囲の重要な変更)	
前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社ムサシは、平成25年5月1日付で、当社を存続会社とし、株式会社ムサシを消滅会社とする吸収合併を行ったことにより、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。	
また、平成25年5月1日付で、株式会社サロンキャリアを新たに設立したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
投資その他の資産	1,540千円	千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
減価償却費	18,011千円	27,234千円
のれんの償却額	1,589 "	1,589 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月26日 定時株主総会	普通株式	23,640	20.00	平成25年4月30日	平成25年7月29日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成25年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リューション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,858,976	740,988	153,809	3,753,774		3,753,774
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,945	29,708	10,490	58,145	58,145	
計	2,876,922	770,697	164,299	3,811,919	58,145	3,753,774
セグメント利益又は損失()	282,052	27,277	3,053	306,277	110,422	195,854

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 110,422千円には、セグメント間取引消去7,642千円、未実現利益の調整額 357千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 117,708千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成26年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リューション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,460,086	903,546	186,004	4,549,637		4,549,637
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22,327	45,296	1,657	69,281	69,281	
計	3,482,413	948,843	187,662	4,618,918	69,281	4,549,637
セグメント利益又は損失()	237,126	29,020	14,585	251,562	132,720	118,841

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 132,720千円には、セグメント間取引消去10,146千円、未実現利益の調整額 727千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 142,140千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	113.37 円	56.52 円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	119,943	66,806
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	119,943	66,806
普通株式の期中平均株式数(株)	1,058,000	1,182,000
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		56.12 円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)		8,333
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権の残高がありますが、前第3四半期連結累計期間は当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
2. 当社は、平成24年10月2日付で普通株式1株につき普通株式200株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年3月13日

株式会社 ビューティガレッジ
取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片岡久依

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 淡島國和

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年11月1日から平成26年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成26年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の平成26年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。